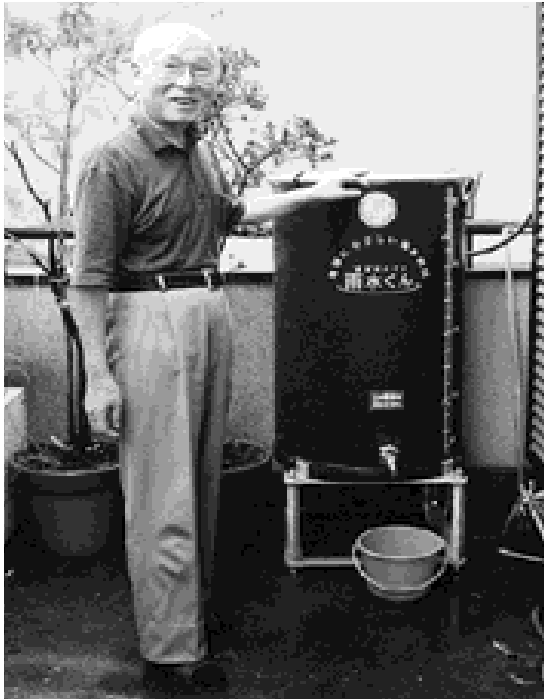


貴重な天からの資源を 自分のできる範囲で 大切に利用していきたいです



REPORTER'S EYE



【リポーター】
ふるべつぶ
吉別府利則さん(中央在住)
リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

梅雨の季節を過ぎ、これからは台風シーズンがやってきます。どちらも共通しているのが雨。今回は平成11年1月にできた新しい課で、雨水対策全般を業務とするのは全国的にみても大変珍しい雨水対策課の樋戸課長にお話を聞きました。

雨水対策課の業務は、市全体の雨水に関する市民の総合的な窓口、中小河川や水路の管理、局地的な浸水被害が発生しないように対策を講じることなどだそうです。最近の特徴として、河川の上流周辺の森林地帯での伐採や針葉樹の植林で自然の保水能力が低下してきていて、降った雨が一気に下流へ流れてしまうのだそうです。狭山では、畑や田んぼも少なくなっており、宅地造成などによる盛土もあって、道路や駐車場もきれいに舗装されたことから、集中

豪雨があると局地的な浸水被害が狭山市でも起こるようになってきていて、逆に地下への浸透は減少の傾向にあるそうです。

このため、少しでも雨水の流出を抑えて有効利用するとともに、地下へ雨水を戻しているところ、今年の5月から、雨水各戸貯留・浸透施設設置費補助金制度」という事業を開始したそうです。実は私もこの制度の利用者で、聞くところによれば第1号ということだそうです。私が、ちょっと紹介したいと思えます。私が設置したのは雨水各戸貯留施設で、以前はペランダに置いてある植木鉢に水をやるの下からバケツで運んだりしていたのですが、広報紙でこの制度が始まるというのを知り、また補助金も出るというので早速に申し込みました。

仕組みは屋根に降った水が雨樋を通じて流れ落ちる間に分水装置を付けて、貯留タンクへ雨水を溜めるといふもので、よくできていてタンクがいっぱいになると自動的に雨樋の方へ水が流れ落ちるようになっていきます。工事も簡単で、タンクを置くスペースがあればどこでも設置できるそうです。植木の水やりはもうこれで十分で、とても重宝しています。また、貴重な水資源の有効利用にも



微力ながら貢献できていると思つと、ちょっと満足感もあります。また、雨水各戸浸透施設というものは、宅地内へ浸透枡を設置して、雨樋からの雨水を地下へ浸透させるという施設です。

雨の被害が出ると大変ですが、雨が降らないと作物の成長や飲み水にも困るようになります。天からの貴重な資源を上手に利用し、浸水被害などを少しでも軽減していきたいとおっしゃる樋戸課長ですが、一自治体だけの対策では対応しきれなくなっているのも現状だそうです。また、狭山、川越、所沢、入間と東京の瑞穂町の4市1町で不老川流域対策協議会という自治体の枠を超えた組織を作り、不老川流域の浸水対策を行っているということです。

県でも、不老川流域の雨水対策として、雨水浸透枡の設置事業が近く始まるそうです。こういった制度は多くの人が協力して設置しないと効果が薄いので、ぜひ皆さんの協力をいただきたいということです。天から降った雨は、できるだけ地下へ浸透させて、緩やかに川などへ戻していくという自然のサイクルを回復しようというこの制度。私もお友達へ勧めてみたいと思います。